

つぼみつうしん



号外
検査の解説編



〒869-1108
菊池郡菊陽町光の森3丁目17-7
Tel 096-201-8660
Fax 096-201-8661



文責:小田久美子

クレアチニン (基準値0.4~1.1)

腎臓の働きを示します。
薬の効き目に影響します。

尿酸(UA) (基準値3.0~7.0)

食事の量が多すぎたり、清涼飲料水・アルコールの
摂り過ぎなどで、高くなります。
痛風発作・尿路結石・腎障害をおこしやすくなり、
動脈硬化が進行します。

CK (基準値30~200)

筋肉がダメージを受けたり、運動の後などに高
くなります。
また、コレステロールの薬の影響でも上がる
ことがあり、筋肉痛や茶褐色尿などが見られます。

総コレステロール(TC) (基準値150~219)

悪玉コレステロール(LDL)が高い人は、動脈硬化
招き、心筋梗塞・狭心症・脳梗塞を引き起こします。

悪玉コレステロールの算出式

悪玉コレステロール＝
総コレステロール－善玉コレステロール
－中性脂肪÷5

中性脂肪(TG) (基準値50~149)

食事の摂りすぎや甘いもの、清涼飲料水・アルコール
でも高くなります。
食事の摂取量を減らしたり、運動をしましょう。

善玉コレステロール(HDL-C) (基準値36~69)

余分にたまったコレステロールを肝臓に戻し、動脈硬化を
予防します。運動不足で低くなります。

悪玉コレステロール(LDL-C) (基準値70~139)

動脈硬化を進行させます。値が低くても、高血圧や
喫煙する人では注意が必要です。

血糖値(グルコース) (基準値70~110)

糖尿病の指標となります。
食後すぐの高血糖が血管にダメージを与え、動脈硬化を
進展させます。

ヘモグロビンA1C(HbA1C) (基準値4.3~5.5)

1日の血糖値の平均が高いほど増えるので、“血糖
コントロールの指標”となります。
いったんヘモグロビンに結合すると、赤血球の寿命が
尽きるまで付いているので、1~2ヶ月の血糖の状態が
わかります。

肝機能 (GOT・GPT)

肝臓に含まれてる酵素で、肝細胞のダメージで血中に
増加します。GPTは主に慢性肝炎・肥満・脂肪肝などで
増加し、GOTは それ以外にも、心筋の病気・骨の病気
でも上昇します。

血清電解質 (Na・K・Cl)

血液の液体成分である血清に含まれている
「ナトリウム・カリウム・クロール」です。
含まれる量はわずかですが、生命活動をスムーズに
行うために重要で、調節能力や食品からの摂取状況
腎臓からの排出障害などで異常が現れます。
ナトリウムとクロールと一緒に存在し、水分不足などで
高くなり、嘔吐などで低くなります。カリウムは筋肉の収
縮に関係し、野菜や果物の摂取不足で低くなります。

以上は生化学的検査と呼ばれ、病気を早く見つけ
て治療したり、適正值にコントロールすることで
動脈硬化を予防することができます。
すべて生活習慣病にかかわります。
食事療法・運動療法でコントロールが難しい
場合は、お薬の力も借りる必要があります。
加齢による動脈硬化を避けることは困難ですが、
適切な生活習慣や治療を継続することが大切です。

つぼみ
調剤
薬局



WBC（白血球）（基準値4000～9000）

炎症や細菌感染の目安となります。

多：感染症、アレルギー疾患、白血病

少：悪性リンパ腫、ショック

RBC（赤血球）（基準値380～530）

貧血や多血症の目安となります。

多：多血症、脱水、火傷

少：貧血



HCT（ヘマトクリット）（基準値34～48%）

血液中に占める赤血球の割合

HGB（ヘモグロビン）（基準値12～18g/dL）

酸素や二酸化炭素の運搬能力

多：多血症

少：貧血、肝硬変、腎不全

MCV（平均赤血球容積）（基準値80～100）

赤血球1個の平均容積

MCH（平均赤血球ヘモグロビン量）（27～32）

赤血球1個のヘモグロビン量

MCHC（平均赤血球ヘモグロビン濃度）（32～36）

赤血球1個のヘモグロビン濃度



以上はすべて貧血のタイプを知る目安になります。

PLT（血小板数）（基準値12～38万/ μ L）

血液凝固に関係する項目です。

多：多血症、外傷、感染症

少：再生不良性貧血、敗血症、血小板減少性紫斑病

白血球分画について

LY（リンパ球）（基準値11～49%）

増：ウイルス感染

減：悪性リンパ腫、自己免疫疾患、腎不全

MO（単球）（基準値0～9%）

増：感染症、白血病、悪性リンパ腫



また、これらの検査は体調や食事の内容、服用している薬の影響を受けることもあるので、いちどの結果で異常かどうかの判断はできないこともあります。

ただし、前の検査結果と比較して悪くなっている項目や数値に目立つ変化がないかチェックすることは大切です。

BNP（脳性ナトリウム利尿ペプチド）

血圧を調整するホルモンのひとつです。

高血圧・心不全などで心臓に負担がかかると



心室からBNPが分泌されます。

健康な人の場合、18pg/mL以下ですが、不整脈等で心臓に負担がかかっている場合は高値を示します。

